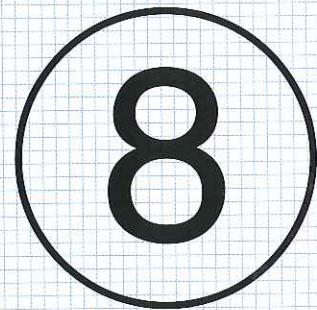
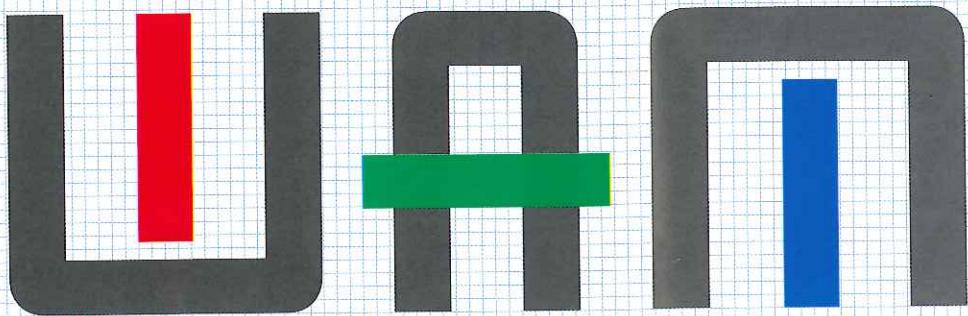


明日の福祉と医療を創るワム



2011

特集

株式会社、NPO法人等も「こども園(仮称)」への参入が可能に

● 福祉・医療最前線

埼玉県ふじみ野市・医療法人社団富家会

● WAMレポート

社会福祉法人の会計基準の一元化について③



独立行政法人福祉医療機構

患者の入居を想定していたこともあり、居室で人工透析を行うことができる。短時間（1回2時間）の透析を週6日行うことで、入居者の身体への負担を減らし、より快適に生活できるよう配慮している。現在、透析を実施している入居者は9人にのぼるが、平均要介護度は2・11で自立度の高い方が多く、状態は安定している。

隣接する病院との連携で急変時にも素早く対応



▲アジアアントレイング・ダイニングは、食事・談話・自治会などさまざまな用途に利用される

入居者全体の平均要介護度は2・75で、要介護3以上の重度者が半数を占める。“住まい”である高専賃で、これだけ重度の人を受け入れている事例は、あまり多くない。緊急時や急変時に、隣接する富家病院の全面的なバックアップがあるからこそ、素早い対応ができる。「徒歩0分」の近さと連携の

2・75で、要介護3以上の重度者が半数を占める。“住まい”である高専賃で、これだけ重度の人を受け入れている事例は、あまり多くない。緊急時や急変時に、隣接する富家病院の全面的なバックアップがあるからこそ、素早い対応ができる。「徒歩0分」の近さと連携の

とりやすさが最大のメリットである。「富家病院と連携し、最大限助けをもらえますから、スタッフも安心して仕事に励むことができます」（大竹氏）。

病院と隣接しているメリットは、それだけではない。日中、体調がすぐれなければ、すぐに医師に診てもらうことができる。入院することがあつても、訪問看護師や介護スタッフが頻繁に見舞いに行ける。入退院時の申し送りもスムーズで、情報はもれなく共有できる。

「重度の入居者が多いため、病院と連携した素早い対応が求められます。それをスタッフも実感し、努力してくれています」（大竹氏）。入居者は、医療機関からの紹介が多かったという。介護保険の住所地特例が適用されたため、前住所地の被保険者も多いが、半数程度はふじみ野市に住所を移している。

医療必要度の高い高齢者は、特別養護老人ホームや老人保健施設では、なかなか受け入れてもらえない。このような入居者を積極的に受け入れたことで、退院予定者の受け入れ先を探していた医療機関等からも喜ばれた。

重度の入居者が多いため、入院

喫緊の課題は、富家病院・富家在宅リハビリテーションセンターなど、今ある社会資源を有効に活かせるように、それぞれが高い意識を持つて、さらに連携を強化することだという。

平成23年4月29日に公布された「高齢者の居住の安定確保に関する法律の一部を改正する法律」により、公布から6ヶ月以内に高専賃等の登録制度は廃止される。代わりに、面積要件や状況把握・生活相談サービスなどの要件を満たしている住宅は、「サービス付き高齢者向け住宅」として都道府県に登録することとなる。

メディカルホームは、条件を満たしているため、サービス付き高齢者向け住宅の登録を申請すると一々づくりにも取り組んでいる。

なお、富家会は、グループ内の医療機関・ケアマネジャー・介護関係者等に声をかけて、地域の高齢者を支える医療・介護・看護の連携強化を目指す「地域リハケアネットワーク」を立ちあげた。以来、多数の事業者で毎年交流を図ったり、講演会を行っている。※

地域の慢性期医療のセーフティネットに

メディカルホームふじみ野
施設長 大竹 裕氏



富家グループでは、医療・介護のさまざまな社会資源を用意してきました。在宅の高齢者であれば、今年4月に開設した「富家在宅リハビリテーションセンター」でさまざまな支援、常時医療の必要がなければ「特別養護老人ホーム大井苑」に入所、透析しながら状態が安定しているなら「メディカルホームふじみ野」に入居、重症で常時医療が必要な場合は「富家病院」に入院——というように、多様な選択肢があります。

地域の慢性期疾患の方が、安心して生活できるような支援体制を整え、地域の方に「困ったら富家グループに相談しよう」と思っていただけるように、今後も研鑽を重ね、質の向上に取り組んでいきます。

※グループウェア…組織内のコンピューターネットワークを活用した情報共有システム

することもあるが、スタッフが入院先の富家病院等に見舞いに行くと、「早くメディカルホームに帰たい」「みんな元気か?」等と言わることもある。入居者に「我が家」という意識があるのだろう。

单身者向けの居室となっているため、別々の病院に長年入院していたある夫婦は隣どうしの2部屋に入居した。妻は、富家病院に入院して亡くなつたが、少しの間ではあるものの夫婦で一緒に過ごすことができ、入院してからも夫は

足しげく見舞いに通い、看取ることもできた。

自治会で話しあい 入居者と一緒につくる住まい

メディカルホームは「施設」ではないため、入居者が一堂に会するような行事は基本的にないが、入居者全員で構成される自治会「さくらの会」を月2回開催し、メディカルホームでの生活について話している。

「私も出席していますが、『食事をもつとこうしてほしい』『金魚を飼つたらどうか』『畑をやりたい』などの話もあり、入居者と一緒にディカルホームでの生活について話している。

メディカルホームは「施設」ではないため、入居者が一堂に会するような行事は基本的にないが、入居者全員で構成される自治会「さくらの会」を月2回開催し、メディカルホームでの生活について話している。

メディカル